

令和6年第7回笠間市教育委員会定例会議事録

- 1 招集日時 令和6年7月23日（火） 午後2時00分開議
- 2 招集場所 笠間市役所教育棟 教育委員会室
- 3 議事録署名人 鳥羽田 信
- 4 教育長及び出席委員
教育長
教育委員 3名
事務局 11名
- 5 傍聴人 なし
- 6 提出された議題（議事） 以下のとおり
- 7 会議の概要
 - (1) 開会
小沼教育長 午後2時00分開会を宣す。
 - (2) 議事録署名人の指名
小沼教育長 鳥羽田委員を指名する。
 - (3) 教育長の報告
小沼教育長 別紙により教育長事務報告をする。

小沼教育長 教育長の事務報告が終わりました。委員の意見を求めます。

各委員 (特になしの声)

小沼教育長 それでは、教育長の報告については、以上のとおりとします。
 - (4) 議事
小沼教育長 それでは、議事に入ります。本日の議事「報告第14号」については、人事案件となりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定に基づき、審議を非公開としたいと思いますがいかがでしょうか。

各委員 (異議なしの声)

小沼教育長 それでは、異議なしと認め、「報告第14号」の案件を非公開といたします。

【報告第14号】 非公開

小沼教育長 それでは、非公開の案件が終了しましたので、会議の非公開を解除いたします。

小沼教育長 以上で全ての議事が終了いたしました。

(5) その他

小沼教育長 先月に引き続きまして、教育に関してお持ちのご意見について、一人ずつ雑感を共有していただきたいと思います。まずは鳥羽田職務代理者からお願いします。

鳥羽田委員 学校見学に行き、特別支援の必要な子どもたちが比較的多いと実感してきました。そこで、指導者をどのように育成していくかが課題の一つだと思っています。いろいろなところに研修に行くという方法もひとつありますが、文部科学省から新規採用職員は10年のうちに複数年は特別支援の担当をするよう、努力義務という形で通知があったと思います。そこについてどのような形で進めていこうとしているのか、計画などがあれば教えてほしいです。

事務局 具体的なプランや進め方については、ただいま検討中です。今後特別支援に関する子供たちが増えていくことは間違いないと思いますので、早急に対応できるようにしていきたいと思っています。

鳥羽田委員 新規採用教員自身も、文部科学省の進めていることを、自分たちが取り組む必要があるのか理解しているのかということもあると思います。理解していれば、自分の都合も含め、10年間のどのポイントで特別支援に関わりたいかということがあると思うので、校長先生が人事を進めるときにも、新規採用の教員にどのようなタイミングで経験させたいかということも含め、しっかり意識してもらいたいと思います。文部科学省からの通知は数年前くらいだと思いますので、なかなか具体的には動いていないと思いますが、これから徐々に計画を進めてもらいたいと思います。

小沼教育長

続いて、戸田委員お願いします。

戸田委員

友部中学校の計画訪問に参加して、2時間分みさせてもらいました。感想ですが、例えば、タブレットの利用の仕方も、各生徒がロイロノートを当たり前のように使う授業があったり、2人で1台を利用したり、グループワークではみんなで調べていたり、自由に子どもたちが利用していて、子どもたちの学ぶ選択肢が増えていると感じました。そして、改めて1クラス30～40人の子どもたちを、ひとりの先生が50分授業をするということは、すごく力のいる大変なことであり、貴重な学びの場だと思いましたので、授業の準備や振り返りに、先生が力を発揮できるような環境づくりができたと思います。また、見学の際、今年の組織目標は「生徒が自分で決められる学校づくり」だと校長先生から話があり、具体的な活動として、校則の見直しを行ったということでした。学校のホームページを見ると、本校の教育のところに「校則の改定」があり、生徒会が主体となり、改定の流れ、調査方法、結果、ポイントが掲載されています。ポイントでは、抽象的な制限の廃止、①「中学生らしい〇〇などはやめましょう。」や、②安全性、「自転車にきちんと乗れるか」、「ヘルメットがかぶれるか」など、制限の理由を明確にして、言葉にして、みんなで話し合って決めるといった活動ができているのは、生徒たちの今後のためにも非常に必要になってくると思いますので、素晴らしい取り組みだと思いました。そして、これをホームページに掲載しているということも、このような活動が共有され、広がりになってくるのではないかと思います。最後に、こちらは残念なことなのですが、部活動の計画表・実績表が掲載されているところと、全くされていないところがあるので、できている学校もあるのですが、学校のガイドラインを作って、チェックしていくような改善があるといいと思いました。以上です。

小沼教育長

部活動の実績報告は公開することが義務となっていますので、事務局から次回の校長会で伝えてください。

小沼教育長

続いて、吉崎委員お願いします。

吉崎委員

私は6月に令和6年度市町村教育委員会研究協議会にオンラインで参加しました。その中で実施された研究分科会において、私が参加したのは、学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行についてで、全国の同じ位の規模の6つの市が参加し話し合い

ましたが、笠間市から出した資料がとても充実していたため、非常に活発な話し合いとなり、質問が集中しました。1番の理由は、カサマジニアクラブの実態と地域移行へのタイムスケジュール、ロードマップが明確であることについての質問でした。共通する点は、指導者となる人材確保、地域移行した場合の親への費用負担、移動手段の援助（親の支援が必要）等の問題が議論になりました。最後にほかの部会からの報告も聞いて、1番大きな問題だと思ったのは、今後部活動が学校教育から社会教育へ移行するのではないかということです。そのことを文部科学省はじめ国はどのように考えているのか、それぞれの市町村教育委員会はどのように考えていったらよいのかという問題です。私は社会教育に移行すべきだと思っています。なぜかという、現在、世界で中高生を対象とした学力調査が二つありますが、どちらも世界一位はシンガポールです。高等教育もうまくいって、世界の大学評価ランキングで20位までに2校はいいいて、世界のトップをはしています。10年前にシンガポールの中等教育、高等教育がうまくいって、世界1位になりそうだとということで調査に行ったのですが、その時に分かったことは、国の政策の1番が人づくり、つまり教育、次に防衛、そして水でした。なんといっても人づくり、その最大は教員で、教員の質の確保です。そのために、教員は学校が2時～3時に終わりますが、一切部活動に携わりません。部活動は全部社会教育、希望者が自分たち（親）でやるという形をとっていて、先生方は成績をつけたりすることはありますが、基本的に次の日の授業の準備を勤務時間内にやります。教員が質の高い授業を行うことに、国や親が非常に力を入れているということです。教育の競争は非常に厳しいです。教育への関心が国も親も大変高い中で、その中でも教員の質が一番大切だと考えているわけです。ですから、徹底して教員に部活動はやらせない、それで学力が世界一に達したわけです。特に理数系教育が徹底しています。これを考えていくと、日本も教員の負担軽減を徹底して考え、質の高い授業と生徒指導、子どものいろいろな面での相談に乗るということに、先生の精力・時間を尽くすような仕組みにしていくことが必要だと考えると、中学校の部活動は社会教育に移っていくべきであると思っています。そのようなことを強く感じました。以上です。

小沼教育長

ありがとうございます。最後に私から紹介したいことがあります。高校生会という組織がありますが、笠間は昔から高校生会の活動が盛んで、現在も茨城県内の中心となって活躍しています。

高校生会という組織は、全国でも茨城県にしかなく、他県では各学校にあるJRC(青少年赤十字)という活動になります。この高校生会は茨城県発祥で、しかも戦後日本には、PTAと子供会、高校生会が茨城県で発生したという歴史的経緯があります。なぜ高校生会が茨城県で発生したかという、これには笠間市が重要な役割を果たしています。笠間城の跡地に「玉滴(たまだれ)の井戸」というのがありまして、これは映画「リング」で「貞子の井戸」と呼ばれ、舞台になった有名な井戸です。この「玉滴の井戸」が水が枯れない井戸ということで、昭和20年頃の高校生たちが、「我々の友情も枯れない、みんなの友情をこれからも長く続けましょう。」と、この井戸の前に立って発足したのが玉滴高校生会という会でした。これが全国初の高校生会の始まりになるのですが、次の年、これに触発された旧笠間市内の高校生たちが新しく作った組織が、現在も続いているという流れがあります。先ほど吉崎委員から話があったように社会教育の重要性は、青少年教育というところなので、学校教育だけでなく、いわゆる社会全体で子どもたちを育てるためには自分たちも積極的に活動するという方向性から、組織の活性化もこれから必要なのではないかと思っています。残念ながら、この玉滴高校生会の母体は、今水戸市に移ってしまっているので、これを何とか笠間の高校生会の活動とつなげて、全国の高校生会の発祥の地は笠間だった、ということを知らせたいければ、青少年教育の発祥地としての役割を果たせるのではないかと考えていることを考えながら、これからの子どもたちの育成に進めていければいいと私自身も改めて思いました。1年に1度、「玉滴の井戸」に集まって会合を開くということなので、笠間市もそれに参加していければと思っています。以上です。

小沼教育長 そのほかございますか。

各委員 (特になしの声)

(6) 閉会

小沼教育長 午後2時29分閉会を宣す。

10 議決事項

報告第14号 専決処分の承認を求めることについて 承認